

＜学校名＞ 伊奈町立南中学校
＜所在地＞ 伊奈町小室3001
＜電話＞ 048-723-1117
＜本事例の特徴＞

人権教育と関連させた国際理解教育。社会活動家の竹中俊氏による講演会と、元PTA会長の方の動画作成による事例として紹介する。

＜具体的な取組や成果＞

○人権講演会の実施

令和5年6月1日（木）に本校体育館にて社会活動家の竹中 俊氏による講演会を行った。講演内容としては、世界が抱える貧困問題や環境問題についての国際理解を含め、ネパールで孤児院を開いたお話や、その孤児院の存続のための活動などである。

生徒の知っているネパールの交流校は比較的富裕層の子女が集まっている。今回の講演を聞くことで、ネパールの中でも貧富の差がかなりあることも理解が深まったと同時に、国際的な視野で人権問題を考えるよい機会となった。

生徒の感想文からは、

- ・差別していないと以为ていても、無意識のうちに差別していたので反省したい。
- ・スラム街に住む人たちや貧困で苦しむ国の人のことを無意識に「不幸である。危険なところに住んでいてかわいそう。」という偏見をもっていた。
- ・学校に行けなくても、食べるものがなくても、生まれた環境も憎まず、その地で生きる意味を見出し、幸せに生きていたり、生きようとしていたりしていることなど講演を聞いて驚いた。自分も自分の生き方に後悔しないようにしたい。

などと、自分の今までの考え方を大きく変化させるような内容であったという感想が多くあった。また、竹中氏のようにたくさんの国で様々な人と触れ合い、たくさんの経験をしたという気持ちをもった生徒も多いた。

○地域人材の活用

令和5年度の人権作文を書くにあたり、4月末に生徒に様々な人権の視点について授業を行った。その中で「外国人の人権」についての学校全体の共通資料として、元PTA会長（ブラジル人と日本人のミックス）の方に協力を依頼し、動画を作成し各クラスで視聴した。動画の内容としては、日本で生活することの大変さ、日本での差別、日本人から受けた恩恵と恩返し等が含まれている。地域の身近な方からの地元での体験談は、とても参考になったと生徒、教師からの感想があった。

○成果と課題

今回の実践では、国籍や民族などの違いにかかわらず誰もが基本的人権を享有する個人として尊重されることや、習慣や文化の異なる人々が互いの文化的な違いを認め合いともに生きることへの理解を深められるような指導を心がけた。その結果、他国の人々や異文化に対する理解については一定の深まりと、また体験的な活動をとおして態度の伸長もみられた。